

2023.01.22. 神は敬虔な者を試練から救う方法をご存じである。

第二ペテロ 2章 4～9 節

JD ファラグ牧師

一緒に祈りましょう。天のお父様、感謝します。主よ「聖書預言・アップデート」を感謝します。私たちは、あなたに集中し、前を向き、主よ、あなたが私たちのために備えて下さる未来を見据えることができますように。主よ、今朝の「聖書の学び」の中にも、私たちと共にいてくださいますように。主よ、私たちを導き、護り、語りかけてください。今日、この場所で共に集まり、この時を過ごせることに感謝します。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。座って下さってもいいのですが、すぐに立っていただきますので、ご自由にどうぞ。カトリックの教会にいるような気がしません？（立ったり座ったり） —(笑)— 失礼。

「第二ペテロの手紙 2章」4節から、節ごとの学びです。待っておられるのは分かっています。すぐ始めます。皆さん座っておられますから、ちょっとだけ休んでいただけますけど、あまりくつろがないでくださいね。オンラインで視聴の方々も歓迎します。ご参加くださり、とても嬉しいです。聖書を一節ずつ学び勧めています。現在「第二ペテロの手紙」で、先週は、3節まで終えました。今日は4節からで、主の御旨に添えば、9節まで進みます。

では今！ここにいらっしゃる方、しなきゃいけないのではなりません。可能な方はご起立ください。私が読むのについてきてください。ところで、たぶん今が、「なぜ」の背後の「何」を説明するのに良い機会でしょう。これは旧約聖書からきています。彼らは、巻物の聖書を読むとき、立って読みます。「エズラ記」「ネヘミヤ記」がそうです。それが理由です。それが私の話で、拘りですよ。では、4節。使徒ペテロです。これはすべてで一文です。私は最善を尽くしますが、皆さんが、一息つきたいと感じたら、それはきっと「一息つきたい。」と思うからですよ。というわけで、がんばります。これはすべてで一文です。

—II ペテロ 2:4—

神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。

—II ペテロ 2:5—

また、かつての世界を放置せず、不敬虔な者たちの世界に洪水をもたらし、義を宣べ伝えたノアたち八人を保護されました。

—II ペテロ 2:6—

また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、不敬虔な者たちに起こることの实例とされました。

—II ペテロ 2:7—

そして、不道德な者たちの放縦なふるまいによって悩まされていた正しい人、ロトを救い出されました。

—II ペテロ 2:8—

この正しい人は彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたのです。

—II ペテロ 2:9—

(JD 息継ぎ中) 主はこのようにされたのですから、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。

祈りましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

主よ、まずはじめにありがとうございます。今日、私たちに与えられたあなたの御言葉のこの箇所感謝します。主よ、ここに理由があって、この聖句箇所に、あなたが私たちに示し、導きたいと思っておられることがあります。

主よ、私たちは、あなたが示したいと思っておられることが何であるかを知りたいです。私たちは、この御言葉箇所を通して、私たちの人生に語られることが何かを聞きたいです。さらに重要なことは、私たちはそれを生活で適用したいです。あなたの御言葉を実践したあの建築家のように。ヤコブ (1:22) が言うように、あなたの言葉をただ聞くだけでなく、御言葉を実践する者でなければなりません。主よ、感謝します。この共に過ごす時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。今度こそ本当に、ご着席ください。ありがとうございます。今日は、「神は敬虔な者を試練や苦難から救い出す方法をご存知である。」という、希望と励ましに満ちた真理についてお話したいと思います。今日の説教のタイトルを特に、このように選んだのは、ペテロがこの言葉を強調しているためです。注目ください。「神はその方法をご存知である。」

なぜペテロは、御霊によってこうは言わないのでしょうか？「神は、敬虔な者を試練から救い出す。」

なぜペテロは「神は方法をご存知である。」と言うのでしょうか？ 思うに、私たちがその方法を知らないからです。それは問題ではないでしょうか？ 私たちはその方法を知りたいです。神は仰います。

「あなたは知らないだろうけど、わたしは知っています。」「主よ、何をなさっているのですか？」「わたしは、何をしているか分かっています。」「どうやってなさるのですか？」「わたしは方法を分かっています。」「私はその方法を知りたいです。」「いいえ。わたしは分かっています。わたしが何しているのか、わたしがしている事をどうやってするのか、分かっています。それを信仰といいます。」

これっておかしいですね？ さっぱり分かりません。しかし、義人は信仰によって生きます。(ローマ 1:17 参照)

信仰とは何でしょう？

「望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル 11:1)

それが問題なのです。私は信仰によって歩みたくありません。目で見て歩みたいのです。見たいのです。この問題がどうなっているのか知りたいです。なぜなら、私の肉が支配したいから。どうすればいいか、何であるかが分かり、方法が分かれば、私がコントロールします。それが目でみて、です。そしてもちろん、ご存知の通り、"百聞は一見にしかず" です。いいえ.....そうではありません。イエスは、その逆を言われました。「信じるのが、見ることです。」あなたが信仰によって信じると、あなたは見ます。だからこそ、ペテロがこのように神の靈感によって書いたのだと思います。

「あなたがたは、主がどのようになさるのか分からないと思いますが、主は、正しい者、神に従う者を、試練や苦難から救い出す方法をご存知です。」

さて、このように始めたかったのは、今日、私たちの前にある箇所で、ペテロが益々強制的に語っていくからです。どういう意味か説明します。ペテロは、神が過去に敬虔な者をどのように救い出されたかについて 3 つの事例を基に説明していきます。そしてペテロは、現在も神はそうなさるという結論に達します。ですからペテロは、この事例を立ててこの結論に向けてますます強く進めます。裁判に例えることをお許しください。証拠 A、証拠 B、証拠 C、評決という感じです。証明です。何を証明するのでしょうか？

「本当に苦しみ、疑っているあなたがたに、私は証明します。あなたがたがいる試練から救い出す方法

を、私は知っています。」証拠はどこにあるの？ 証拠 A、例 1。証拠 B、例 2。証拠 C、例 3。そして 9 節に来ると、評決です。そこから始めたいと思います。よろしければ、順番を逆にします。9 節から始めましょう。「もしそうなら……」とは、その通りで、なぜなら、この時点までのすべてを強調していくのが「もしそうなら……」とは、その通りで、なぜなら、この時点までのすべてを強調していくのが「もし神が…、もし神が…、もし神が…。」「だから神は……。」だからです。もしあれがそうなら、「主はこのようにされたのですから、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。」(9 節) 言わば「2 つでひとつ」に皆さん気づきましたか？ 神は正しい者を救い、解放するだけでなく、正しくない者を裁かれます。ペテロがここで結論づけているのは、「もし」主が正しい人を救い出し、正しくない人を罰したのなら、主は、間違いなく、今も、敬虔な者を救う方法をご存知であると同時に、不敬虔な者を裁く方法をご存知です。それがこの問題の結論です。私はそれを証明できます。これが私の証拠です。私の実例です。これが私の証拠です。証拠 A、B、C です。さて質問は、なぜペテロは聖霊によってまずこのようなことを書いたのか。その答えは 2 つあります。第一に、神がペテロに手紙を書かせたクリスチャンたちは、厳しく激しい迫害の下に、押し潰されそうだったから。もし私が当時そこにいて、使徒ペテロが、「もう時間がありません。これが私の別れの言葉です。」と手紙を書いたら、私はその一言一句にしがみつきます。なぜ私が一言一句にしがみつくと、これは正に生死がかかっているからです。神が私を救い出し、彼らを裁かれるという、この真理によって私は励まされ、強められる必要があります。迫害を受けていたからです。

2 つ目の理由は、恐らく今日、私たちが学ぶこの箇所文脈は、より広い適用になる事です。彼らは迫害を受け、しかも、偽教師もいます。激しい迫害を受け、それに加え、おまけに偽教師たちからの脅威があり、熾烈を極めていました。これでも大変控えめな表現です。そのため、この叱咤激励の言葉を強調することが当然のレベルまで達する適切な言葉でした。それは、彼らにとって聞く必要ある言葉、すがりつく言葉でした。

「ああ、そうだ、主は、昨日も今日も永遠に同じ神だ。もし主が、当時の神の民を救い、その方法をご存知で、実績があられるから、今の私に、そうされないわけがない。」

主は、昨日も今日も、そして永遠に同じ神です。私は、ダビデのことを考えます。ダビデが大好きです。彼がまだ 10 代だったと考えられてた時、父親がダビデを、兄たちの様子を見に戦場に行かせます。3 人の兄たちは戦場で、四十日四十夜、無割礼のペリシテ人が、彼らの神を冒瀆するのを聞いていました。彼らは、恐怖で麻痺していました。(I サムエル 17 章参照) そこにダビデがやって来ます。ダビデの長兄は、ダビデに対して辛く当たっていました。サムエルが、父親エッサイの家に来たとき、自分がサウル後継者としてイスラエルの王になるはずだったのに、そうならなかったからです。彼は長男なので、当然選ばれるはずだったのです。いつも長男が最初です。しかし、それは彼ではなく、他の兄弟でもなく、ダビデでした。ダビデは、最も小さく、最も若く、最後の者でした。それで、長兄エリアブは、ダビデに対して非常に辛く当たっていました。そんな中、あのチビ助ダビデが戦場にやって来ました。彼が最初に話したのは、長兄のエリアブです。中東の文化では、一番上の兄が最重要人物であることを理解しなければなりません。長男が父親の名前を継ぎます。それだけ、長男は大切な存在です。次男は、それほどでもありません。長男は、はい重要です。それがエリアブでした。エリアブが、最初に話しかけます。ダビデはきっとこんな風だったでしょう。「あ…エリアブだ…」話そうとして、でもできなかったと思います。エリアブは、ダビデに言います。

「お前はここで何をしてるのだ?」「ああ、父さんに頼まれ様子を見に来ました。無事ですか? どうしてるのですか?」食べ物やパンや栄養剤を持ってきました。父さんが兄さんたちのことを心配していて、どうなっていますか?」エリアブの反応は、

「ここは男の戦場だ!!子どもは帰れ、羊のところに戻れ!!」(I サムエル 17:28 参照)

その時ダビデは、遠くから無割礼のペリシテ人が、イスラエルの神の御名を冒瀆するのを聞きます。

「あれはよろしくありません。」さて、聖書には記されていませんが、きっと対話があったでしょう。エリアブとではなかったかもしれませんが、しかし、なぜかダビデはすぐにサウルに呼び寄せられます。

「サウル王、どうされました? 私を覚えておられますか? 王が悪霊に苦しめられていたときあなたにハープを弾いた者です。私はそのハープ奏者です。この状況は良くありません。あなたたちは、どうされるのですか?」「まあ、その...」「私に、彼と戦わせてください。」サウル王はこうです。

「いやいや、ダメだ。あの男は、お前のような子どもを昼飯に食べる。無理だ。」

ダビデは「いいえ。これはよろしくありません。」

ダビデは、サウル王を説得し、無割礼のペリシテ人と戦う許可を得なければなりません。彼は、どのようにそれをしたのか? お～ダビデは、過去に神に救い出された時のことを持ち出します。

「ですから同じように、神は今回も、私を救い出し、あの無割礼のペリシテ人を私の手に渡してくださいます。」

では、神は過去に何をされたのか?

証拠A: 熊を私の手に渡して下さった。私は、熊を殺しました。

証拠B: 私は獅子を殺しました。

どうです? 私は素手で! ほ～ 今、同じことができます!! やれます!

「わかった、やってみなさい。」ダビデはついにサウル王を説得します。サウルは何をしたのか? ダビデに自分の鎧を着せます。想像してください。サウルは、背の高い人物だったのを思い出してください。実に、これが私たちの方法で、人の名前を覚えられないので、思い出すために連想し、誰かが自分をパウロと紹介し、その人が背が高いなら、「背が高いなら、常にパウロと覚えよう。」という風に。実は私は、一度うまくいきませんでした。その人は背が高かったのに、「あ、お名前何でしたっけ?」とにかく、私の問題はもう十分ですね。失礼。(笑) 実はこれで話の向かう先があります。サウルがイスラエルの王に選ばれたとき、彼は背が高く、とてもハンサムだったと聖書に書かれていますね。体格もよく、つまり、「ああ、この人物だ!」という感じでした。サウルは、背が高かったのです。そして、この小さなダビデ。私たちは、彼が血色がよく、ハンサムだったのを知っています。でも、彼はまだ小さな子どもです。ですから、恐らくダビデはサウルをこう見上げて話したでしょう。そして、説得されたサウルは、ダビデに自分の鎧を着せます。(I サムエル 17:38 参照)

「私の体に合うサイズではありません。これでは、動けません。」重さはどれくらいかわかりませんが、ダビデはこう言いました。「サウル王、失礼ですが、私にこれは必要ありません。もし神が、私の手に渡して下さったなら、あ、失礼、熊と獅子を。私は何と言いました? 熊と獅子って言いましたよね? (主よ、ありがとうございます) 完全な失言はしてませんね。主イエスよ、ありがとうございます。」

実は、この中に類型論があります。とにかく...OK。進行中の説教に戻ります。ですから、「もし」「もし」「もし」神がそれをなされる「なら」「なら」、今回も、神は私を救い出して下さいます。それが私の証拠です。そして評決が出ます。エリアブを想像できますか? 彼はこの一部始終を横から見えていましたね。

お～、ラクダの上のハエになってこの成り行きを間近で見たかったです。ダビデは、1つの石を取って、そのやりとりが、これについて最後にもう1つ。ゴリアテとダビデのやりとりです。ダビデは、決して名前前で呼びません。因みに、ゴリアテとは王者という意味です。ダビデは決してゴリアテと呼びません。彼は王者ではないからです。ダビデは、無割礼のペリシテ人とはしか呼びません。複数回、さらにこう言います。「この無割礼のペリシテ人は、神を冒瀆した。お前は終わりだ。お前は死ぬ。お前の首は僕が貫う。」そして、そうになりました。このやり取りがとても興味深く、ゴリアテもこんな感じです。

「おいおい、これは冗談か？カメラはどこ？ 頼むわ～。マジ？」ダビデはこう返答しました。緩い言い方ですが、説明のために。この無割礼のペリシテ人ゴリアテに対し、ダビデは基本的にこう言います。私は、ここに大きな誤解があると思います。

「醜い大男よ。私とお前の問題だと思ってるのか？ いいや、そうではない。私とお前の問題ではない。」ダビデが戦場に出て行ったとき、イスラエル兵たちはこう言ったと思います。

「ダメだ～。ダビデ、やめろ～すぐに昼飯にされてしまう。」ダビデを可哀そうに思っています。ダビデが基本的にこう言ったとき、「これはお前と私の問題ではない、お前と神との問題だ。」ダビデに同情する側から、無割礼のペリシテ人に同情する側が変わります。なぜなら、ダビデは基本的に言います。

「お前を今すぐ殺してやる。」最後にもうひとつ詳細。私はここが大好きです。これは、聖書の中で私が最も好きな記述の一つです。これは興味深い詳細ですが、

「ダビデは、彼（ゴリアテ）に向かって走った。」とあります。もし、私がこの無割礼のペリシテ人で、手っ取り早く「ゴリアテ」だったら？ 私がゴリアテなら思うでしょう。「ああ、これって新しい（初めてだ）！ —(笑)— 今まで、私に向かって走って来た者は一人もいない。いつも誰もが私から逃げる。これは今まで見たことがない。」この時点で彼は分かったでしょう。「おっお～、ダビデが正しい。これは神と私の間のことだ。私は神を冒瀆したから、もう、おしまいだ。」

ポイントは何かという、ダビデは、事実上ペテロと同じようにもし神が、幼いダビデを獅子と熊から救い出されたなら、私は自信がなくなっていますが、「熊と獅子」です。この無割礼のペリシテ人の手からも神は、私を救い出されると言います。皆さん、点と点が繋がりますか？ あなたは今日、どんな巨大な試練を教会に持ってきましたか？ 神は、あなたを救い出されます。神は、その巨大な試練からあなたを救い出す方法をご存知です。その方法を知っておられます。もしあなたが、神が過去にされたことを知っているなら、そのことに安住し、信頼すべきです。信仰によって信じてください。神が、あのことをなされたなら、神は、このこともなさいます。この教えの準備のための祈りの時間に私が「ビッグ3」と愛称するペテロが使っている3つの例、言わば説明に実は、衝撃を受けました。「ビッグ3」とは、「悪魔」「世」「肉」です。そのすべてから、神は、敬虔な者を救い出すという御言葉を私たちに与えておられます。ですから、ここで私がしたいことは、この3つの例を順番に見ていき、神が、過去にどうやって、そして、なぜ敬虔な人々を救い出されたのかを説明する事で、私を含む私たち全員が神は、現在も救い出さしてくださると励みにする事です。「悪魔」の話をししましょう。あまり悪魔の話はしたくないのですが、4節にありますので、その話をしなければなりません。では御心なら、「ユダの手紙」に入れば、ペテロがここで言及している特定の墮天使について、もっと深く掘り下げます。実は、ユダもそれを説明していますが、ここでの私たちの目的は、ペテロが参照した「創世記6章1～2節」にある墮天使についてを話します。「創世記6章1～2節」で墮天使たちは何をしたのか？ あまり生々しくしたくありませんが、彼らは、人間の女性と性的関係を持つ事で、人の遺伝子を破壊しました。悪魔が人類に永遠の破滅を望ん

だからです。(第一礼拝)におられなかった方、「聖書預言・アップデート」はこの事が全てヒトゲノム/人間のDNAの話でした。補足的で言わせてもらいますが、人間のDNAには、神の御名がその上に、その中にあります。「YHWH」、私たちが知っているテトラグラマトンです。「YHWH」は、母音はありません。「ヤハウェ」です。私たちは、神に似せて創造されたので、神の御名が、人間のDNAの中にあります。これが理由で、神は洪水で全地球を滅ぼさねばなりませんでした。彼らの血統、遺伝子が破壊され彼らはもはや人間ではなくなり、呪われ、運命づけられていたからです。そのため、創世記6章では、これについても少し話をしました。さっと言いますと、「創世記6章9節」にノアのこと書かれています。彼の遺伝子は完全に無傷だったとあります。それが、彼が救われた理由です。そして、不敬虔な者たちは裁かれました。その例がこれで、今から見ていきますけど、これは悪魔の攻撃、サタンの攻撃、霊的な戦いと関係があります。「もし」神が、正しい者を霊的攻撃から救出する方法をご存知なら、神は、あなたを悪魔の攻撃からも救い出してください。

「あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」(1ヨハネ 4:4)

ここが教訓です。「もし」、この言葉をさらに使いますが、もし、神が墮天使たちをタルタロス*/地獄に幽閉することで(*幽閉する場所の名)ノアの家族を救い出したのなら、神は、悪魔の攻撃から正しい者を救い出す方法をもご存知のはずです。ローマ人への手紙8章。

私たちは単なる勝利者ではなく、圧倒的な勝利者です。(ローマ 8:37 参照)

勝利者以上です。悪魔は、既に敗北した敵です。勝利は、既に私たちのものです。私たちのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大です。ローマ人への手紙8章もそうだと思います。間違っているかもしれませんが、「エペソ人への手紙6章」悲しい事に、この言葉は使われすぎて、文脈から外れているようです。そうすることで、その力は弱まってしまいます。神が私たちに与えてくださった霊的武具。サウルの鎧ではありません。これは霊的な領域に適合するものです。そこに戦いがあるからです。私たちクリスチャンは、「悪魔」「世」「肉」と戦っています。これが「ビック3」です。

神は私たちに勝利を与え、私たちに救い出してください。神は、悪魔のすべての攻撃から私たちに救い出す方法を、私たちに解放する方法をご存知です。悪魔が逃げることができるのは、私たちが悪魔に逃げるのを許すからです。私のメモにはなかったことですが、きっと分かってもらえたと思います。皆さん、ポイントは分かりますね？ 私たちが、悪魔を逃がし過ぎます。神は、私たちが悪魔の攻撃から救い出す方法を知っておられます。「世」について話しましょう。5節、ここでペテロは、洪水の記述を参照し、「もし」神が、古代の世界を惜しまず、ノアを救い出したのなら、私たちが救って下さると言っています。当時、神がその方法をご存知だったなら、今、その方法をご存知のはずです。実は、この箇所と次の節にも、かなりの類型論があります。これは、預言的に深いと言っても過言ではありません。なぜなら、ノアはイスラエルの予型、エノクは教会の予型だからです。

「エノクは神とともに歩んだ。彼はいなくなった。」(創世記 5:24)

なぜ？「神が彼を取られたから」です。洪水前に。彼(エノク)は、教会の予型です。神は、エノクを救う方法をご存知でした。教会の縮図です。また神は、イスラエルを象徴するノアの救出方法もご存知です。ノア/イスラエルは、洪水/患難時代に入り、洪水/患難時代のド真ん中で救われます。正にイスラエルが、7年間の患難時代に救われるのと同じです。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ、非常に興味深いです。こもれもまた類型論です。以前「聖書預言・アップデート」の中で話したことがあります。ノアと、その家族7人が、ところで、ペテロの詳細で、ノアと他の7人、それは偶然ではありません。意図さ

れたものです。「7」は完全数です。ノアと7人の家族は、雨が降るまでの7日間、箱舟の中にいました。彼らは洪水の中で救われました。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが7倍燃え盛る炉の中で救われたのと同じです。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ、ノアと家族7人の縮図です。大患難時代に救われるイスラエルの縮図です。ダニエルはどこ？ お～炉の「前」に高い地位に引き上げられました。エノクが、大洪水「前」に引き上げられたように。さあ～それが神でしょう？ そうです。私は類型論が大好きです。OK。とにかく、ここには類型論があって、ロトにも同じことが分かるでしょう。ソドムとゴモラのロトに関して、非常に魅力的な詳細、証拠Cです。ですから、証拠Aは「悪魔」主はあなたを救う方法をご存知です。証拠Bは「世」主は、かつての世界でノアにされたように、私たちを救い出す方法をご存知です。神は、患難時代前にキリストにある正しい者をこの世から救い出す方法をご存知だと証明しておられます。そのことを見逃さないでください。それが患難時代前携挙の予型です。ノアとロト、それよりさらに、「肉」の話をする必要があります。う”～「肉」、醜い頭をもたげますね。6節から8節です。木曜日の夜「エレミヤ書48章」のモアブ人と「エレミヤ書49章」のアンモン人について、少し詳しく説明しました。モアブ人とアンモン人とは誰でしょう？ 彼らは、現在のヨルダンの地域にいた人々です。モアブとアンモンは、ロトの娘たちから生まれた2人の息子です。ここで置いておきます。とても下劣です。また、木曜日の夜にもその話をしました。今日、この話を持ち出したのは、神がロトのために何をされたかを理解しなければならないからです。ロトが躊躇しているときにさえ、神は彼を救われました。お付き合いください。御使いたちがソドムとゴモラにやって来ました。再度、生々しい詳細には触れたくありませんが、とても、ただ.....悍ましい。でも御使いたちは、ロトに言います。

「あなたは今すぐ、行かねばなりません。」(創世記 19:15 参照)

ロトはこんな風です。「待ってください。そんなに急がなくても、いや、いや、いやその前にコーヒーを淹れましょうか?」「ダメです。今すぐ出て行きなさい。あなたが出ていくまで、私たちは裁きを下すことができないから。」彼らは「あなたが出て行くまで裁きを下さない。」とは言いませんでした。

そうではなく、「あなたを救い出すまでは、裁きを下すことが ”できません。”

ここに注意してください。敵に思考を乱されたり、気を散らされたりしないでください。敵は、あなたにこれを知られたくないから。このことはとても重要です。つまり、御使いがロトに言っている事は、

「私たちはあなたを救いに来ました。あなたはすぐに行きなさい。直ちにソドムとゴモラを裁きたいけれど”できない”のです。信じなさい。あなたが出ていくまで”できない”のです。後ろを振りかえってはいけません。」(創世記 19:17 参照)

ご存知、ロトの妻に起こったことです。2人の娘は、すべてを見た後、本当にトラウマになったでしょう。言い訳ではありませんが、恐怖のあまりに、彼女らが自分たちがしたことをした理由が、ある意味、説明がつくかもしれませんね。モアブとアンモン (モアブ人とアンモン人) という二人の息子を生んだ事です。しかし、ここが話の向かう先です。48章の終わりで、神は、モアブ人を回復されます。千年王国に、彼らを回復させられます。49章でアンモン人は、アンモン人に対する裁きから始まり、神は、アンモン人を回復させられます。「第二ペテロ2章6節から8節」へ早送りします。ペテロは、少なくとも3度、正しい者として、ロトを参照しています。ちょっと待って。(笑) ロトは去りたくなかったんですよ！ 実際、私の間違いでなければ、叔父のアブラハムと彼は成長し、繁栄し増え広がって、お互いの間で争いが起こり、ロトの一族はあの家畜と群れを手に入れました。そこでアブラハムは、二人は別れなければならないので、ロトに自分が行く場所を最初に選ばせました。ロトは、ソドムとゴモラの煌めき、刺激、

活気、繁栄を見て、そちらを選んだと記されています。そういうわけで、ロトが、ソドムとゴモラを選んだのが分かります。そして、すぐに分かるのが、彼は出発しました。走ってではなく、歩いていき、ソドムとゴモラの天幕にいました。次に分かるのは、彼はソドムとゴモラの門にいます。その意味は分かりませんか？ 彼は指導的立場にあります。彼は、この場所で、すべてを手に入れました。そこで、全ての事業が行われていました。ロトは正しい者ですか？ ロトはその時、義理の息子に、主の御使いたちが彼と家族を救いに来たと告げます。彼の婿たちは、「頼みますよ。飲み過ぎでは縁を切りますよ。」彼らはロトを信じませんでした。冗談だと思ったのです。本気にしなかったのです。なぜ本気にしなかったのでしょうか？ 「一緒に行こう。」「頼むわ〜。ロト。私たちは、あなたが誰で、どんな人か知ってる。世俗的だ。」ロトの妻は、行きたくなかったのです。ロトだけでなく、彼の妻はそれ以上に。事実、細かいことを言えば、御使いは、彼らの両手を掴んで、そこから引っ張り出さねばなりませんでした。(創世記 19:16 参照)

そしてそれから、裁きが下されました。ロトが救い出され、連れ出されるまで、ソドムとゴモラに火も硫黄も一度も降り注がれませんでした。皆さん、私が何を言いたいかわかりますか？ 教会が携挙で、この世から引き上げられるまで、神の御怒りの火と硫黄は1つも下りません。できないのです。

「ロトよ、あなたをここから連れ出すまで、私はここですべきことができません。できないのです。でも、そうするやいなや、ほー！ 早くせねばなりませんでした。ロトの妻が振り返って、塩の柱になるほど近かったからです。(26節)

ところで、「これは聖書の話ではありません。」という人。おお、大嫌いなことですが、すみません、強い言い方ですけど、人がこう言うのが嫌いです。「ねえ、聖書の中で私の好きなキャラクターはね、、、」何ですって？ アニメですか？ ー(笑)ー 皆さん、この文脈を除いて、好きな聖書の登場人物だと、私が言うのを聞くことはないでしょう。こうも言いませんよ。

「聖書の好きな物語なんだ〜。だって、ただの物語だから、ああ、寝る前に聞かせるお話です。」ノアと箱舟になると、かわいい小さな箱舟に動物たちが描かれていますよね。おお、なんてかわいいお話でしょう。ちがいます！ 神が世を滅ぼされた時の洪水の聖書の記述です!!! ごめんなさい。そこまでのつもりはなかったんですが。ヨナはどうでしょう？ これには本当に参りました。理由を言います。これは本当にあったことです。ロトの妻は、本当に塩の柱になりました。本当に起こりました。ヨナは、クジラ級の大きな魚に本当に飲み込まれました。なぜそれが私を悩ませるのか理由を言います。

「そう、かわいいアニメでね、こんな大きな魚がいて、ヨナはね、大きな魚に飲み込まれたんだよ。」私たちはそれを使って、ちょっと素敵な物語や歌を作ります。ちょっと待った！ 人々がイエスにするしを求めたとき、イエスが何と仰ったかご存知ですか？ イエスは柔和で温和に言われました。

「ヨナにするしのほかには、しるしは与えられません。人の子も三日三晩、地の中にいるからです。それが唯一のしるしです。」(マタイ 12:39/40 参照)

「お〜それは聖書の中だけの話だと思っていました。」世の救い主が、それを参照され、参照されるだけでなく、それが唯一のしるしだと仰ったのですよ!! ー爆笑ー イエスはそんな風には仰っていませんけどね。私なら絶対そんな風に言いますが。ー(笑)ー

やっしまいました。ごめんなさい。ロトに戻ります。

では、教えてください。ペテロは、なぜロトを3度までも正しい人と参照したのでしょうか？ たぶん一度「正しい人、ロト」？ いいえ、3度です。実際、ロトはその正しい魂ゆえに、不義、邪悪、つまり放

蕩、罪、悪、肉の欲に毎日、毎日、苦しめられていたのです。彼は、その正しい魂で苛まれました。それで、何がポイントですか？

ではここで、私のポイントを述べて締めくくります。もし、神が苦悩するロトを義と認めて救われたのなら、どれほど神は、私たちの苦悩する魂も、キリストにあって義と認めて救ってくださるでしょうか？ 私たち自身の正しさ（義）ではなく、イザヤ（64:6）は、私たち自身の義は不潔な衣のようなものだと言いました。描写の話ですよ。本当に原文でどうなっているのか、自分で聖書を調べてください。神にとっては、そういうことなのです。もし私たちが自分の義を神に持っていくなれば、それは汚れたぼろ布のようなものです。そうこれは、私たちの義ではありません。ロト自身が義ではないのです。そうではなく、神によって義とされたのです。そして、神は義の者を救い出す方法を知っておられます。神は、義の者を救い出されるだけでなく、不義の者を裁かれます。そして、そうなさいました。これらがその例です。これは脱帽ものです。数週間前のペテロが、変貌山の記述の説明に入る箇所を覚えていますか？ そこにヤコブ、ヨハネと一緒にいて、ペテロはあっけにとられていました。また細かい詳細が大好きです。ペテロはなんといいかわからなかったもので、こう言いました。

「ああ、私たちがここにすることはすばらしいことです。アパートを3つ作りましょう。イエス様、1つお持ちください。そして、エリヤとモーセは.....」（マルコ 9:5/6 参照）

ペテロ、そんなこと言わないで。ペテロは、愛で正されました。イエスは、預言者や律法のレベルに引き下げられることはなく、イエスは預言と律法を成就された方です。しかし、なぜペテロはそれを持ち出したのでしょうか？ なぜペテロはこれを使い、持ち出したのでしょうか？ なぜなら彼は、この山に関して持ち出し、しゃれを言うつもりではなく証拠を示しているんです。

「私には証拠があります。私は見たのです。私はあの変貌の山にいたのです。」「お～それはすごい、ペテロさん。私はいませんでした。私は何を投げ所にすればいいの？」

聞いて下さり大変嬉しいです。なぜなら、それは経験で、素晴らしいですが、私の投げ所ではありません。私が信じる投げ所は、聖書のより確かな言葉、証明、証拠です。「あ～変貌山ね。うー！」聖書は、「うわお～!!!」もし、誰かを起こしてしまったらごめんなさい。もう終わります。ー(笑)ー

それが私の信じるところです。早送りします。さあ再度行きますよ。正真正銘、聖霊によってペテロが、「あなたがたは本当に苦労しています。あなたがたの中から出る偽教師たちの脅威は恐ろしいです。あなたがたは酷い迫害で苦しんでいて、コロシウムで、多くの愛する人たちを亡くしましたね。あなたがたは、たくさんの愛する人を信仰のために殉教で失いました。」

当時は、クリスチャンであることが違法だったのを理解せねばなりません。法律違反でした。クリスチャンだと分かると殺されました。死のみです。そういう世に、彼らは生きていました。そこでペテロは励まそうとしています。

「あなたがた、踏ん張るのです。主はその方法をご存知です。神がなさったことを見てください。神が、それをなさるなら、こんなことは何でもありません。」

つまり、考えてみてください。洪水？ それだけでも。それだけ取っても。OK。ではロトを持ち出せませぬ。ソドムとゴモラ。あなたの問題はなんでしたっけ？ 何をそんなに恐れているのですか？ 何が巨大な試練でしたか？ もし神がその解決方法をご存知なら、（プシュー!：なんちゃない）（プシュー!）その一言に尽きます。つまり、分かりますよね？ という感じです。ええ。

「神様、どうなさるおつもりですか?」「本当に？ わたしがどうするかですか？ あなたはわたしが、

何をしたか知ってますね？ かなり感動ですよ。これは数多くの内のたった3つですよ。」
いくつありますか？ 私がペテロなら、付け加えたでしょう。私なら、紅海でのごと紅海を真っ二つに割られたことをどう入れるか考えたでしょう。大好きな奇跡のひとつです。私なら、やはりダビデと無割礼のペリシテ人のことも入れたでしょう。もし神が、イスラエルの民をエジプト人の手から救い出し（紅海）、ダビデを巨人の手から救い出されるなら、神は、方法をご存知ですから、必ずあなたを救い出されます。あなたは神を信じますか？ 私は自分自身を奮い立たせています。主を信じてください。神はその方法をご存知で、必ずなさいます。あなたは証拠を見てきました。陪審員はもういません。評決は出ています。あなたは救い出されます。ただ、あなたが考えるような方法ではないかも知れません。またもっと重要なのは、あなたが考える時ではないかも知れません。私たちは昨日と同じように考えたがります。
「あなたは何を待っておられるのですか？ 今が良い時です。」「いいえ、まだです。わたしの栄光のため、わたしのタイミングでわたしの方法です。待ちなさい。あなたは今に分かります。」
子どもたちにそう言ったのを覚えていますか？ 子どもの頃、そう言われて嫌じゃありませんでした？
「待ちなさい。今に分かるから。」待ちたくないよ〜！「いいえ、ちょっと待ちなさい。今にわかるよ。」
「ええ、でも神様！」「いいえ、待ちなさい。今に分かります。お〜それから、わたしを見ていなさい。」
ほ〜、モーセに仰いました。

「しっかり立って、主の救いを見なさい。」(出エジプト 14:13)

これを見ていなさい。とにかく、紅海でのごとは含まれていなかったもので、その話には行きませんが。これで終わりです。皆さん、嬉しくないですか？ カポノ、上がってきてください。(笑) お立ちください。この終わり方好きじゃないですか？ とてもスムーズでしょ？ 継ぎ目がないというか。
主よ、あなたはとても良いお方です。あなたはとても良いお方です
主よ、本当にありがとうございます。ペテロにこのように書くよう導かれたことを感謝します。私たちが聞く必要があるからです。当時の彼らと同じように、今の私たちにも必要です。主よ、あなたは私たちを解放し、救い出す方法をご存知です。そして、あなたはそうされます。そうされます。ですから、主よ、感謝します。私は、本当にそういう状況にあるあらゆる人のために祈ります。あなたが彼らの心を励まし、強めてくださいますように。あなたが過去になさったこと、あなたが昨日も今日も永遠に変わらぬ神であられる事を思い出させてくださいますように。主よ、ありがとうございます。私たちはあなたをととても愛しています。イエスの御名によって祈ります。 アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7